

日本経済新聞 平成22年8月26日

39 北陸経済

【第三種郵便物認可】

北陸の産学官と市民で構成する北陸グリーンエネルギー研究会（炭谷茂会長）は、一般廃棄物に付着したアルミニウムを分離・抽出し、水素を発生させて起きた電気で、富山市八尾町で9月1日開幕する「おわら風の盆」のぼんぼりの一部を点灯する。

同研究会はアルミニウムを自動分別し、独自開発した乾留技術でアルミニウムを高純度で分離することに成功した。アルミニウム酸化

「おわら風の盆」エコの灯 廃棄アルミから水素、発電



9月1日開幕する「おわら風の盆」の前夜祭(20日、富山市)。

同システムは2009年

度から3年間の環境省の

「地球温暖化対策技術開発

事業」に採択され、主受託企

業のトナミ運輸と共同で軽

トラックの走行実験を行つ

など北陸3県でデモンスト

レーションを実施中だ。お

同研究会は、自治体、婦

人会など市民組織の協力を

ら出る燃えるごみ（生ごみ除く）の約2割を占めるとされ、製薬、加工食品会社は包材くずを大量に排出しているという。内部にアルミニートを張った紙パックなどは紙やプラスチックと分離できず、一般廃棄物として焼却処分されている。

同研究会は、自治体、婦人会など市民組織の協力を

得て北陸30カ所でアルミニウム液を反応させる

わら風の盆のあとは、24日

の金沢市のしいのき迎賓館

き紙パックを回収していく。

北
陸